

e-dream-s 通信

No.38 発行：2003年10月12日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

目次

- | | | |
|------------------|-------|----|
| 1. デジタル三角形 | 辻 荘一 | p2 |
| 2. メルセデス・ベンツの法則 | 中川 房代 | p4 |
| 3. ECAP2004 への提案 | 井川 好二 | p6 |
| 4. 実りの秋のうれしいニュース | 塚本 美紀 | p8 |
| 5. ベトナムへ行こう(2) | 山田 昌子 | p9 |



アゼルバイジャン・パワー 子どもの教育と健康のリハビリセンター「ラードゥガ」にて © e-dream-s

学芸会で民族舞踊レズギンカを披露する子供達。女の子が着ている衣装はチェチエンの民族衣装。この衣装を作るために大変な苦勞をしたという話だが、民族の誇りをわすれないために、がんばったという。
(2003.5...[チェチエンの子どもを支援する会](#))

デジタル3角形

辻 莊 一

先週は勤務校の二年生が北海道に修学旅行中で、二年生の授業を持ちながらも居残りの私は暇になるかと期待していたのだが、逆に多忙な一週間となってしまった。というのは、修学旅行中の生徒の様子を画像とテキストで、しかも可能な限りリアルタイムでHPにアップしようということになったからだ。

つまり、出発の日の午前中保護者が学校HPをみると、「無事に全員伊丹空港を飛び立ちました」というテキストとともに、集合して説明を聞いている生徒たちのデジカメが画像が見られる。夕方また見ると「無事ホテルに到着しました」というテキストと午後の活動の様子を撮影した画像が見られる、というようにやろうと考えたのである。

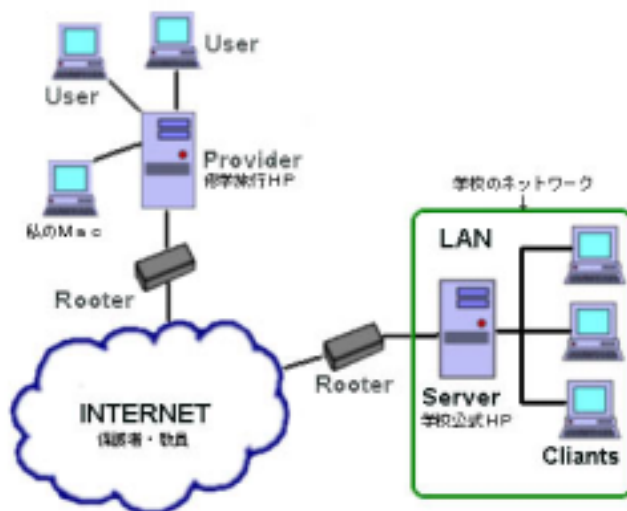
携帯電話の圏内であればメール機能のおかげでテキストのレポートが送れるし、さらにカメラ付き携帯を使えば、高画質ではないけれど画像も問題ない。デジカメ画像はホテルのコンピュータから送るしかないのが、これは必然的に一日一度の更新になるが、これはやむを得ない。

ただ、学校の公式HPは教育委員会が仕切っているので、更新が深夜二時頃一度だけに決まっている。それではせっかく携帯からリアルタイムで受信した情報を生かすことができない。そこで臨時に修学旅行専用のHPを立ち上げて、公式HPからリンクをはることで対応した。つまり、公式HPは一日一度の更新しかないが、そのページからリアルタイムで更新している修学旅行HPに跳べるというわけである。

しかし、さらに問題があった。勤務校のコンピュータからはセキュリティの関係でFTPが使えないのである。FTP (File Transfer Protocol) とはサーバ上のデータを更新するときを使う仕組みである。要するに学校のコンピュータからは外部のコンピュータがいじくれないようになってきているわけだ。とにかく、これが使えないので、学校でリアルタイムにテキストと画像を受信しても、それを修学旅行HPにアップという作業が学校からはできないということである。

やむを得ず、勤務中に一時帰宅して自宅のマックからHPの更新をすることにした。

さて、その仕組みを右図で説明すれば、次のようになる。保護者や教員は学校のネットワーク内のサーバにある公式HPを開き、その「修学旅行速報」というボタンをクリックすると修学旅行HPが開く。利用者は意識していないが、学校公式HPは学校ネットワーク内のサーバに、修学旅行HP¹は私のプロバイダのサーバ、と別々の場所にある。学校ネットワーク上のコンピュータの一つから私のプロバイダのサーバにある修学旅行HPの更新ができればいいのだが、それができないので帰宅して、自宅のMacを使って送られてきたテキストと画像を更新する作業を行うという手順である。



授業その他の校務もこなしながらの更新作業で、結構な作業量であることもあり、あまり見られていないようなら来年からの実施は検討しなければならない。果たして、アクセスカウンターで利用状況をモニタしてみると最初の半日で200を越え、最終的に4日間で1300、1日あたり300を越える結果となった。これだけ見てもらえれば本望である。

冷凍食品は、輸送車両 小売店 家庭の冷凍庫の3角形が完成して初めて一般に普及したが、教育分野のインターネット通信においても、データ送信 データ受信と加工 利用者（今回の場合は、携帯 学校や教師のコンピュータ 保護者のコンピュータ）というデジタルデータの3角形が完成しつつあるようだ。今回は修学旅行のレポートという形であったが、授業やその他の場面でもデジタル通信がごくふつうに使われる日が迫っている。もっとも毎朝黒板に修学旅行のレポートがない、と文句を言っていた非デジタル教員もあるようだが、世間はもっと先に進んでいるのである。

¹ <http://www.osaka-c.ed.jp/suita/zen/>

メルセデス・ベンツの法則

中川 房代



左のマーク²をご存知だろうか？

そう、車にさほど詳しくない私でも知っている世界的に有名な「メルセデス・ベンツ」のマークである。今から書こうとしているのは、車の話でもベンツ社の話でもない。「メルセデス・ベンツの法則」の話である。

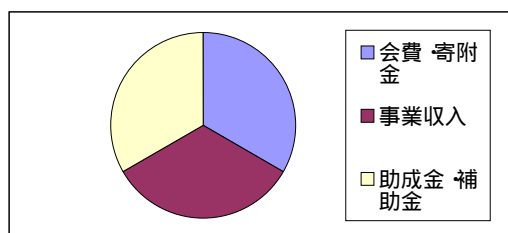
何の法則なのか？

実は、NPO³の資金調達の法則である。一般的に、NPOの資金調達・財源確保(fund-raising 最近では fund development とも言う)は、「メルセデス・ベンツの法則に則るのがよい」とされている。NPOの主な収入を大別すると、1. 会費(入会金)・寄附金、2. 事業収入(収益事業も含む)、3. 助成金・補助金⁴、の3つとなるが、この3つの割合を3分の1ずつにするのが望ましいと言われている。それを円グラフにするとちょうどベンツのマークになることから「メルセデス・ベンツの法則」と呼ばれている。加えて、会費・寄附金収入の金額で、そのNPOの管理費を賄うのがよいとされている。

それでは、実際にはどうであるか。

2002年度のデータ⁵を調べてみると、国際協力系の大手のNPO/NGOでは、アフガン問題で注目を集

めた「NPO法人ピース・ウィングス・ジャパン」は会費・寄附金が61%・事業収入12%・助成金が20%、フォスター・ペアレント制度で知られている「財団法人フォスター・プラン協会」や1999年にノーベル平和賞を受賞した「NPO法人国境なき医師団」は会費・寄附金がそれぞれ98%、99%とほぼ100%に近い。



² マークは、メルセデス・ベンツオフィシャルサイトから
<http://www.mercedes-benz.co.jp/>

³ 広い意味でのNPOという意味で、NPO法人に限らず、財団法人や社団法人、社会福祉法人、法人格のない団体も含む。

⁴ 「助成金」と「補助金」の違いは、「助成金」は主に民間の助成財団と言われる団体からの財政的支援をいい、助成団体にはトヨタ財団、日本生命財団などがある。「補助金」は主に国・地方公共団体の制度に基づいて交付するもの。

⁵ 資料は、「NPOジャーナル vol.3」発行：2003年10月1日 NPO法人関西国際交流団体協議会より

最近調べたもう少し規模の小さいNPOでは、「NPO 法人多文化共生センター」が会費・寄附で13%・事業収入が36%・助成・補助金で50%、「NPO 法人コミュニティ・サポートセンター神戸」が会費4%・事業収入（ほとんどが受託事業）80%・助成金16%、「NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML コムル」は、会費が23%・事業収入が65%となっている。

しかし、ここにはデータ（の信頼性）の問題がある。この数字は、各団体が公表している収支計算書のデータを、私が計算しまとめたものである。NPO 法人を始め公益法人には、企業のような統一した会計基準がなく、収支計算書を見ても、勘定項目の設定や分類もバラバラで、各団体が自分たちのやり方で行っているというのが現状である。つまり、比較ができない。「NPO 会計の統一基準を作るべきだ」という意見も出てきてはいるらしいが、種類も活動も多様性のあるNPOを1つの基準で括るのは、なかなか困難を極めそうである。

さて、ベンツの法則については？

勿論、5つや6つのこれだけの例で全てを結論づけることはできないが、上に挙げた団体は資金的にはうまく運営できている部類に入る団体であり、ここに載せていない団体も含めて、私の全体の印象としてはベンツの法則に従っている団体はほとんどないようだ。それでは、「メルセデス・ベンツの法則」が間違っているのか？？ これについてはもう少し研究テーマとして置いておくことにする。

最後に、e-dream-s は？

2002 事業年度の総収入から見た会費の割合は8%、事業収入が22%、小口債券に因る借入金が70%となっている。事業収入の内訳は、東京書籍に販売した写真の収益の残金と「マレーシア・シンガポールツアー2002」の参加費である。とても健全財政とはいえない。どうしたらいいのかの解決には、もう少し時間が掛かりそうである。

しかし、今年は「ECAP 2003」への万博協会からの助成金の獲得に始まり、最近、福岡でもECAPに関わるこの冬のプログラムへの資金的な支援が決まったそうである。理事会では、「ECAP 2004」の開催・実施の正式決定に向け、論議を始めたところである。今年もあと3ヶ月、2004年に向けて、この秋も幸先のよいスタートを切っている。

ECAP 2004 への提案

ACROSS / e-dream-s

井川 好二

朝夕、ほどよく冷え込んで、身体がシャキッとする季節ですね。頭も、少しはきりっとします。そう、「秋は、夕暮れ⁶」でしたっけ。ちょっと、物悲しい感じのするところが、秋らしくて良い、ですね。

しかし、ACROSS / e-dream-s では、秋は、次年度の夏の海外プログラムを企画する季節でもあります。寒さへ向かう時期に、一年先の真夏のイベントを考えるのは、なかなか想像力のいる作業ですが、もう15年間も、毎年今頃この作業を行ってきました。

1987年にスタートさせた「アジア・ツアー」をはじめ、これまで企画実施した多くの海外研修プログラムが、参加された皆さんにとって、満足いただけるものだったことは、それぞれの実行委員会メンバーと私の誇りとするところであり、実施後に寄せられた参加者のご意見を前向きに検討し、よりよいプログラムを目指して、努力してきた結果だと思えます。ご協力ありがとうございました。

さて、今年の秋は、「ACROSSメンバーのために e-dream-s が企画実施する」、「ECAP 2004」を考えています。

ご承知のように、「ECAP」とは、アジア太平洋州の教師が協力して、日本語と英語、また、その年に ECAP 海外合宿を開催する国の言語の3か国語で、相互文化理解のためのテキストを作成すると云うプロジェクトで、10年計画として、今年からスタートしました。

第一回目の「ECAP 2003」は、この夏、韓国で開催され、熱心な韓国の先生方と有意義な「缶詰合宿」を行い、共同執筆したテキストは今、校正 / 編集の段階にあります。また、「ECAP

⁶ 秋は夕暮。夕日のさして山のはいとちかうなりたるに、からすのねどころへ行くとして、みつよつ、ふたつみつなどとびいそぐさへあはれなり。まいて雁などのつらねたるが、いとちひさくみゆるはいとをかし。日入りはてて、風の音むしのねなど、はたいふべきにあらず。清少納言「枕草子」[広辞苑第五版図版付き]

2003」は、(賤)日本万国博覧会協会より、ご賛同をいただき、助成金を交付されるプログラムでもあります。

現在、2004年夏に実施予定の「ECAP 2004」を企画中ですが、「ECAP 2003」とは異なるものとして、以下の点を提案させていただきます。皆さんの、忌憚ないご意見をいただければ、幸いです。

1. 2004年夏期に実施予定の「ECAP 2004」は、(1)ベトナム、(2)韓国、の2か国での開催とする。
2. それぞれ「ECAP Vietnam 2004」、「ECAP Korea 2004」と称し、双方の実行委員会が、相互に連携を取りながら、企画を進め実施する。実施委員長は、両方とも井川とする。
3. ACROSS会員の参加は、「ECAP Vietnam 2004」、「ECAP Korea 2004」のどちらかを、選択することとするが、両方のプログラムへの参加も歓迎する。
4. 「ECAP 2004」を、ベトナム、韓国の2か国で開催しようとする理由は、以下の通りである。
 - (1) 共同執筆した相互理解テキストを、作りっぱなしにせず、実際に現場で使用した経験を踏まえて、改訂を行いより良いものとする必要があること。すなわち、ECAP 2003で作成した「日韓相互理解テキスト」を、改訂する場としての「ECAP Korea 2004」。
 - (2) ECAP 2003の実績に基づき、次年度にも韓国で実施することにより、多くの韓国側参加者が見込まれ、ホームステイなどの充実も図れ、質的に高いプログラムが実施可能である。
 - (3) わが国と朝鮮半島との地理的、歴史的関係を考える時、一過性ではない、安定的でより緊密な日韓教師のつながりを、構築する必要があり、ECAP 2003で培った人間関係がその基盤となりうること。
 - (4) アジアツアーでも訪問する機会がなく、長年そのための準備を行ってきたベトナムでのプログラムは、ベトナム国大阪領事館をはじめ多く機関、グループに関わっていただき、さまざまな状況から、その開催のタイミングを2004年度以降とすることは、不可能であること。
 - (5) 2か国開催で、それぞれの参加人員は減るが、現地でのプログラムの密度は向上し、時期をずらすことにより、参加者には選択の範囲が増えること。
 - (6) 2か国実施で、実行委員会の人員は、2倍となり、こうした国際交流プログラム企画、実施に関するノウハウを、伝承する機会も増えると考えられる。将来

において、国際、ボランティア、多文化理解などの分野で活躍する教員に求められ能力を、開発するプログラムでもあり得ること。

付記：

まだ企画途中ではありますが、2004年の2つ開催予定国（ベトナム、韓国）において訪問場所に関して、若干ふれておきたいと思います。正式下見前の企画段階の情報ですから、後で変更の可能性のあることは、十分お含みください。

- ベトナム： ACROSS/e-dream-sとしては、初訪問のベトナム、少し欲張りに、ハノイ、ホーチミン両都への訪問、交流プログラムの実施を考えています。なお、テキスト「缶詰合宿」はホーチミン市内で開催するつもりです。
- 韓国： テキスト「缶詰合宿」をソウル市内、またはソウル近郊で開催するつもりです。また、「缶詰」終了後、希望者へのオプションとして、済州島（チェジュ）でのプログラムを検討中です。

以上

実りの秋の嬉しいニュース！

塚本美紀

昨夜、自宅の玄関横の駐車場に車をとめ外にでると、どこからともなく金木犀の香りがしてきました。今年一番の金木犀が咲いたのはどこのお宅だろうかと思っていたら、裏庭に咲いているうちの金木犀でした。深まりゆく秋ですね。

秋といえば実りの秋。先日、新幹線に乗って窓の外を見ていたら、稲穂が黄金色に実り、まさに「頭をたらして」いました。その実りの秋に、嬉しい「実り」のニュースです。

韓国の先生方をお招きし、日韓両国の生徒が互いの文化を理解するための方策を話し合うた

めのシンポジウムを福岡で開催するという企画に福岡県海外教育事情研究会より助成金 10 万円が交付されることになりました。福岡県海外教育事情研究会とは、福岡県の教職員および教育行政職員のうち海外研修や中央研修に参加したもので構成される会員数 2332 人の研究会です。本年度より、会員の国際交流活動を支援するために助成金が支給されることになりました。

現在、皆様ご存知の Kwon Young Hee 先生と来日の日程などを検討中です。細かいことはこれから詰めていくこととなりますが、現在のところ決まっているのは以下のとおりです。

日程： 2003 年 12 月 11 日から 17 日の間の数日間

場所： 福岡県立ひびき高等学校（北九州市戸畑区）および北九州市内の会場

内容： ひびき高等学校で、今夏韓国で作成したテキストを使用して授業を行う。

ECAP や上記授業での経験をふまえ、日韓相互理解教育についてシンポジウムを行う。

シンポジウムの参加者は、福岡県海外教育事情研究会の会員。

この企画は、e-dream-s の活動を教育関係者に知っていただく良い機会となるだけでなく、ECAP の企画にも還元できるものと思います。実り多きものとなるよう、慎重に計画を進めていきたいと思ひます。

ベトナムへ行こう！ < 2 >

山田昌子

Dear Masako Yamada!

I'm very happy to receive your letter and some photos. It was the first time I had taken photo with foreign people so it was an unforgettable memory. I really appreciate it.



これは、最近私のところに来たベトナムからの手紙です。初めてベトナムに着いた時、知り合った女性からの手紙です。

この夏、私と小関さんは、ECAP 2003 Korea の途中ソウルから飛行機でハノイ入りし、外交官のムン氏が案内してくれた小さなホテルに着きました。荷物を部屋に置き、ホテルの前でムン氏と待ち合わせをしていると、ノーヘルや2人乗り、時には1台に3～5人が乗ったバイクが行き交う、にぎやかな通りの中で、天秤棒をかついで歩いている女性が目に入りました。年の頃は60代でしょうか。ベトナムでは必ず見るといってよい円錐形のすげ笠をかぶり、スタンドカラーの上着に黒いズボンを身に付け、初めて見る南国のトロピカルフルーツ(註)をかごにいれていました。唇には赤い紅をさし、上品なお婆ちゃんでした。私は見とれてしまいました。そして次の瞬間、@aglance のために写真を撮りたいと思いました。「小関さん、声をかけてみよ！」

私たちは、元気な声で挨拶をし、写真を撮ってもいいか、英語で聞いてみました。でも言葉は通じませんでした。彼女は見知らぬ者に声をかけられ、少しびっくりしているようでした。

カメラを取り出し、写真を撮る真似をすると、こちらの意図はようやく通じたようでしたが、何故自分を撮りたいのかわかりかねるという様子でした。ジェスチャーと明るい笑顔で、「お婆さんがとっても美しいので写真が撮りたい！」とお願いしました。彼女はポケットからコインを取り出し、お金がほしいというポーズをとりました。お金・・・?! そういう申し出に少しがっかりした私は、まだ換金を済ませていなかったことを思い出しました。財布には日本円しか入っていませんでした。5円玉を渡しました。ベトナムのお金がほしいようでした。換金をしていないのでベトナムのお金はないというのは理解できないようでした。それでも、お金がないのはわかってもらったようで、彼女は観念して写真撮影を了解してくれました。通りがかった青年(写真右)が、私たちの英語を聞いて、ベトナム語に通訳してくれたお陰かもしれません。



デジタルカメラで撮った写真を見せると、彼女は満面の笑みをうかべました。それから小関さんと彼女、私と彼女というように、続けてカメラを向けると、自分から次々と肩を組んだり、顔と顔をくっつけてきてくれました。合計5、6枚程写真を撮りました。

通りがかった青年の協力を得て、彼女の住所をメモ帳に書いてもらい、私たちは写真を送ることを約束しました。私は帰国すると、約束通り手紙と写真を送り、その後、このことはすっかり忘れていました。

9月末、突然ベトナムからの航空便が届きました。天秤棒をかついでいる時とは別人のように、イヤリングとネックレス、黄色いアオザイを身に付け正装し、金色のお花の飾りを手に持ち、お寺の前でましている彼女の写真が、同封されていました。

手紙は1枚、英語のタイプでした。英語のできる誰かに頼んで、返事を書いてもらったのでしょう。写真のお礼と共に、「初めて出会った外国人にとまどったこと」「次に訪越する時は、ハノイ南東にある Hung Yen プロビンスの Man Xuyen 村の自宅において下さい」と書かれてありました。

他にも、ハノイの街のコーヒーショップで竹の煙草を吸っていた81歳のお爺ちゃんの姿に魅せられ、写真を撮らせていただきました。それは彼の店で、現在は65歳の息子さんが経営されているようです。同様に英語は通じなかったのですが、漢字を書き、互いにコミュニケーションができたのは、さすが中国文化の影響のある国民同士です。写真を送ったところ、孫娘から e-メールをいただき、私は今時折 e-メール交換をしています。

That's glad to receive your email. I had told my grandpa about it and he was really happy. He's looking forward to meeting you again in our country, too. Smoking by the bamboo seems to be one of our hobbies, just for man of course. It may be make you surprise, I understand. My grandpa is willing to present you one on your next coming here. We hope you will be happy about it.

ECAP 関係でも素敵な方々に出会いましたが、このような興味ある出会いもありました。あなたもこのような出会いを体験してみませんか？

来年の夏は、是非ベトナムへ行こう！！



ECAP 200 Vietnam の「実行委員」を募集し決定した実行委員は以下のとおりです：

飯田、小関、岡田、山田(敬称略)

12月末、実行委員長の井川先生と共に、ベトナムへの下見を行う予定です。

註：「マン・カウ」という果物。カスタード・アップル。洋梨の風味を濃厚にしたような味。北部ではナーと呼ばれる。

編集後記

1 ページ目の写真は、e-dream-s が運営する教育用写真アーカイブ@aglance から持ってきたものです。国名の一覧を見て、なんとなく「私の知らないところ」と探して見つけた「アゼルバイジャン」の写真です。写真だけを見ると、民族衣装を着て踊っている女の子と男の子、としかわかりません。でも、写真についている説明を読むと次第にいろんなことがわかってきました。この子どもたちは、祖国であるチェチェンを離れてアゼルバイジャンで難民生活を送っていること。たくさん子どもたちが、戦争のために傷を負い、心の病気になっていること。そして、その子どもたちを支援している人々がいること。写真に説明がついていることの重要性がよくわかりました。平和を築くためには「想像すること」が大切だという話を聞いたことがあります。1枚の写真に写っている人たちはどこで、どのような生活をしているのだろう・・・と想像する。@aglance はそういうことにも貢献しているのだと思います。(田辺恵美)